

フィールド レポーターだより!!



異様に暑かった夏が行ったと思つたら、秋が足早に来たようで朝夕はもう寒いくらいになりました。みなさんがお住まいの地域はいかがでしょう。

ところで、去る 9 月 2 日(日)に今年度第 1 回目のフィールドレポーター交流会を開催しました。

今回は、今年度第 1 回目の調査「私の選んだ 21 世紀に残したい湖国滋賀(わが町)のいろいろ!!」を中心に、春から続いている「へちまクラブ~夏のへちま交流会~」を合同で行いました。「私の選んだ~」の方は、結果と概要について古谷さんの方から報告していただきました。「へちまクラブ」の方は、梶本さんからへちまの育て方やへちま水の取り方など、いろいろなお話をしていただきました。特にへちま水の取り方では、根元の方からとるのか、先端の方からとるのか議論になり、試してみようと言うことになりました。へちま水をとるのはちょうど今頃がよい時期だそうですので、へちまが余分にある方は試してみられてはいかがでしょう。また、お昼には芳賀学芸員を中心に、へちまの試食会を開催しました。沖縄ではよく食べられているへちまですが、滋賀県では食べる習慣が無く、ほとんどの方がへちまを食べるのは初めてだったのではないのでしょうか。

2001 年度第 1 回調査

「私の選んだ 21 世紀に残したい湖国滋賀(わが町)のいろいろ!!」

結果報告

今回の調査では、50 名の方から報告がありました。調査結果については、スタッフの武田さんと古谷さんを中心にとりまとめを行っていただきました。報告を頂いたみなさんそれぞれに深い思い入れのあることが、今回の調査からよくわかりました。そのため、集計は非常に難しかったようです。また、それぞれの報告からみなさんの思いがひしひしと伝わってくるため、今回は公表してもよいとお答えの方の報告については、あえてそのまま載せてあります。これを見ることで、私たちの湖国滋賀について、新たな一面を発見するきっかけになることと思います。今回の調査は、21 世紀最初のフィールドレポーター調査として、みなさんの滋賀県に対する思いをお聞きしました、この数十年は激動の時代でした。今後も大きな変動があることと思います。また何年か後に同様の調査をすることで、時代の変化を知ることができるのではないかと考えています。



なお、今号のレポーター便りはボリュームが大きいこと、へちまクラブについては、まだ続いていることから、交流会で行ったへちまクラブの内容については今号には乗せませんでした。へちまクラブについては、今後も掲示板等でお知らせしていきたいと思っておりますのでご了承ください。

私の選んだ 21 世紀に残したい湖国滋賀(わが町)のいろいろ

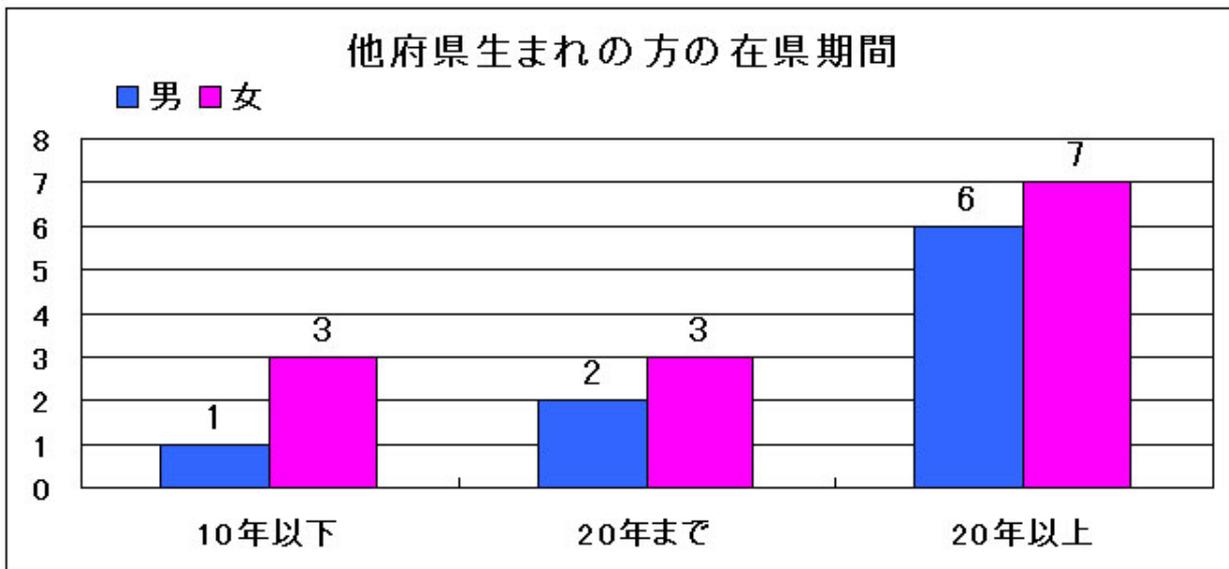
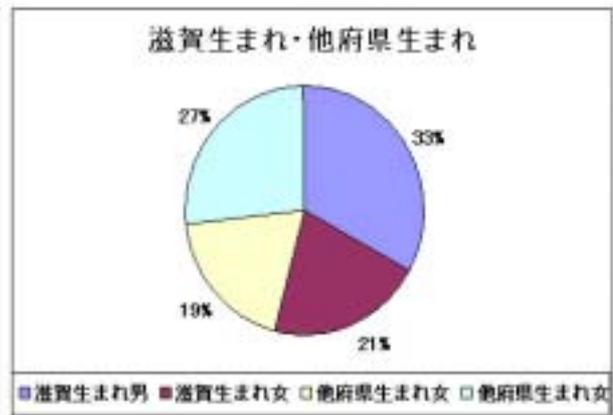
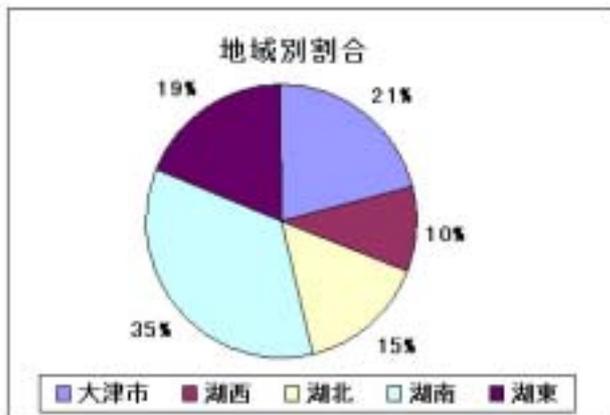
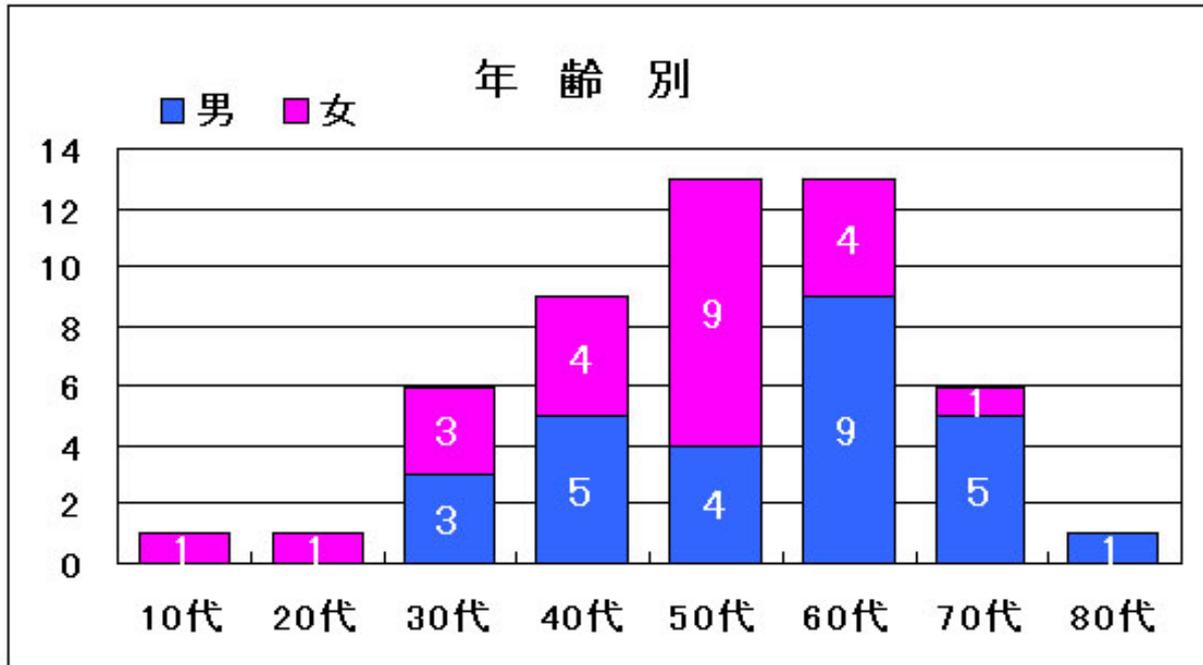
2001 年度
第 1 回フィールドレポーター調査結果報告

平成 13 年 9 月 2 日(日)
琵琶湖博物館:生活実験工房
Fレポーター:古谷善彦



| 回答数 | 平均年齢 | 性別 | 出身地 | 滋賀県在住期間 | 掲示板への掲載 | |
|-----------|------------------|------|--------|------------|---------------------------------------|-----------|
| 50 名 | 54.8 歳 | 男 27 | 滋賀県 26 | 平均 38 年 | 私のメッセージ のみ 可 41 否 5 未記載 4 | |
| 5 市 30 名 | 13 歳から 82 歳まで | 女 23 | 他府県 22 | | | 1. 出生後 21 |
| 15 町 20 名 | | | | | | 2. 転入後 21 |
| | | | | | | 3. 帰郷後 3 |
| | | | 未記載 2 | 1+3 3 | 未記載 2 | |

資料作成：武田繁、前田雅子、古谷善彦



調査結果の勝手な考察

フィールドレポーター 古谷 善彦

今回の調査は項目が広範囲に亘ったことで、回答を寄せて戴いたフィールドレポーターの皆さんいろいろな面で改めて各々の生活観を認識されたのではないのでしょうか。そして回収率 42%(50 人)という高い数字が示すものは、日々変化する[湖国滋賀 1]そして住み慣れた[わが町 1]の今昔への想いが痛切に感じられたことです。

寄せていただいた回答から、勝手な考察(総評は各自で)を短文でまとめて見ました。

1. 滋賀の風景・景観

3つの折から

自然的・歴史的では矢張り湖国を代表する伊吹・比良・比叡の山々、延暦寺・彦根城・三井寺などが選ばれているのは当然と言えば当然ですが、自然的景観ではさすがに鋭い観察で四季折々を感じさせる、 から見た夕日とか、 の夕日、夕暮れ時の 口、冬の 、雪の ・その中で「適度にハゲた田上山」という表現はユニークで実際に山も素晴らしいと再確認しました。

また・暮らしの中の景観では身近な日常の生活環境と付随していると思われる茶畑とか、仰木の棚田・沖島の漁村風景、在原のかやぶき家群、坂本の石積みの町並みなどなど、どの回答にも一度は訪れてみたい郷愁を誘うところがたくさんありました。

中でも仰木の棚田に 5 人の人が挙げ、関連する言葉の田んぼや田園を含めると 16 人が暮らしの中の景観として挙げられています。さすが湖国は昔から日本のコメどころでそれが又、美観でもあると頷けます。

一私のメッセージから

メッセージでは何故か琵琶湖と書いた人は僅か 5 人でした。それも風景・景観として?を含めて。自然的にも歴史的にも暮らしの中の景観にも琵琶湖は風景・景観に入らないのか、広大すぎて風景・景観以上のものなのか、常に目の前にあって意識するに足りない程の立場にあるのか? 設問からの解釈では琵琶湖の景観には当てはまらないのかも?

開発が同時に風景や景観も失わせている、山の中まで車が入り込めるようになった。不便さは無くなり生活は楽になったが相応以上の大切なものがどんどん失われて行く。「21 世紀に引き継ぐには、人間の生活と自然環境のかかわりを見直してみる必要がある...」と書いてくれた人がありました。正しくそのとおり自然の破壊は地球の破滅になるかも知れません。

残したいものに負けず無くしたいもの(水質汚染、生態系の絶滅懸念、減反による農地の

荒廃、廃棄ガス、ゴミ、開発、騒音など)の回答が多いと言う印象を受けました。

・ 滋賀の生き物

3つの選択から

魚介類ではニゴロブナ・ホンモロコ、アユ、セタシジミ、を殆どの人が1つ以上選択されていました。理由如何にかかわらず、何れも琵琶湖ならではの固有種であり代表的な生態系でもあり無くしてはならないと思います。

また、琵琶湖オオナマズが8人、ただ今博物館で企画展開催中の「鯰」やドジョウ、めだかそして、ハリヨ、ぼて、ぼてじゃこ、タナゴなど遠い昔のふるさとの小川の清流を思い出すような魚の名前がありました。

動物、昆虫、鳥獣で特筆はホタル(ゲンジホタルを含む)がダントツの25人と約半数の人が選んでいました。最近滋賀県だけでなくホタルの成育は水質環境がバロメーターとなっているようです。ホタルの出現があちこちで聞かれるようになりましたが環境改善の証と言えるのでしょうか。

鳥類、昆虫類では、県鳥でもあるカイツブリが9人のほか、クワガタ、トンボ類、蝶々類もちらほら。山椒魚、メダカ、キツネ、そしてコシアカツバメ(ツバメの調査を思い出します)その他思い思いの類いろいろ。

植物では、シャクナゲ15人、ヨシ9人、ザゼンソウ9人がベスト3でしたが、ここでは広範囲にそれぞれに好きな植物が選ばれカタクリ、松、たんぽぽ、桜、ハス、もみじ、などほぼ50種類に及びました。ここで気をひいたのはカタクリ。単にカタクリと書いた人、マキノのカタクリと書いた人、皆さんマキノを指しておられるのでしょうか。

生き物で無くしたいもの、筆頭はやはりバスギルと言われているブラックバスで28人、ブルーギルも21人と3番目のカラス10人を大きく上回り誰もが認める琵琶湖の生態系を乱す大敵と言えるでしょう。

私のメッセージから

基本的には本来棲息していた生き物は、すべて生き続けることが望ましいと言ったニュアンスの回答が多いように思います。

古代湖の固有種が減少している。災害は減ったけれどもその根源となる場所に生息していた生き物がいなくなった。絶滅寸前の種族もいる。

むかしのような自然相手の遊びが出来なくなった。それは矢張り開発による種の激減、絶滅や、人間がよりよい生活環境を創出するための副産物である廃棄物が、生き物を棲め

ない環境に追いやっていると云えるのではないのでしょうか。

そして、野生生物と共生を目指す点から残したい生き物を3つ選べと言うのは酷ではないか、との記載がありました。当然ですね。

この項の冒頭に書いたように生き物はすべて生き続けることが望ましい事ですが、それを人間が勝手に選んでいいのか、と選ばれない生き物は怒るでしょう。

これこそ人間のエゴかも知れません。エゴにとらわれずエコに努力したいですね。

また、外来種しか棲んでいない琵琶湖になって欲しくない。植林地を荒廃から守れ、そして「琵琶湖の水を昔のようなきれいな水にするのはもうダメなのではないでしょうか?…」に対して、「そう考えてはいけません。我々がきれいにしなくてはならないのです!!」と言いたいですね。

． 暮らしと文化・伝統

3つの選択から

残したい食生活、郷土食、近江の味、ふるさとの味などでは、鮎ずし 33人、コアユ(アユを含む)のアメ煮 10人、日野菜漬 7人がベスト3で赤かぶら漬、シジミ汁が続きますが、湖魚のつくだ煮類(あめ煮、山椒煮、甘露煮など)も多くここでも琵琶湖の恩恵に浴した湖産の加工食品が好まれています。

祭りでは、犬津祭 15人、長浜の曳山祭、11人、長浜子供歌舞伎 6人がベスト3で後は左義長祭、日野祭、建部大社祭ほか地域密着型と言えるような名前の祭りがあるほか山東町ほたる祭、時代がそう呼ばせるのか、びわ湖花火大会が4人もありました。

伝統行事・冠婚葬祭・しきたりなどは、地蔵盆で6人、幅広いテーマだけに内容はいろいろで正月の行事だけでもドンドン祭、初詣、門松飾り、神事でもおこない、新生児参り、地元の秋祭り、春祭り、お神楽、竹馬祭、などこれぞまさに地域の伝統そのものです。

遊びでは、残したいと言う気持ちが伝わってくるような昔からの遊びの風揚げ、カルタ、百人一首、コマ回しなどの文字が目につきました。また、彦根が発祥地と言われるカロム(オセロに似たゲーム遊びと聞きました)と言う言葉と中身を初めて聞きました。

私のメッセージから

暮らしの中で地域のしきたりに関する事柄が比較的多く残したいと思う反面、現実としては面倒だったり今の生活にはなじまない、所謂それを守り引き継いでいくには余りにも手間が掛かり過ぎるという悩みがあるのでしょうか。そんな事から現実問題としてしきたりの見直しや生活改善との大義名文の基に対応されているようです。

食物ではここでも琵琶湖産ふなずしです。昔から保存食として滋賀県ではその家庭の味として珍しい食物ではなかったそうですが、県外から移ってきた人には食わず嫌いも手伝ってすんなりとは受け入れられないようですが、今は値段を聞いてすんなりとは受け入れられませんね。ますます高価なそんなふなずしの現状です。

シヨイメシ(醤油御飯)を知っていますか、農家の素朴な食事が想像されませんか？

IV.まとめ

3つの選択から

．．に属さないもので残したい、無くしたいものがテーマですがここまで来るとさすが千差万別・前項までとの重複もあって仕分けが出来ないほどの内容で、これこそ皆さんが興味を持って読んでいただくと、それぞれ一味違った想像が出来ると思います。

残したいものでは、信楽焼(狸を含む)が4人で一番多く、琵琶湖関連では、琵琶湖のえり、琵琶湖のヨシと水質保全、琵琶湖のエリ漁(2人)、琵琶湖の水の美しさ、琵琶湖を大切にすゝる気持ちと活動、琵琶湖の風景、琵琶湖の価値、琵琶湖周航の歌(2人)、青い琵琶湖、琵琶湖に沈む夕日、コハクチョウや鴨のいる琵琶湖、など琵琶湖回帰思考の中琵琶湖博物館もありました。

また、天の川の見られる場所、博物館から見た夕焼け、青い空、星のきれいな夜空、琵琶湖に沈む夕日、犬の散歩でみる夜空の星、などロマンチックな空の光景も。

その他山並み、自然、そして老人クラブの奉仕作業、農林漁業、などいろいろ。

無くしたいものでは、ブームの水上バイク、琵琶湖空港が共に5人づつ、その他杯のやりとり、バスフィッシング、過剰な農薬散布、除草剤、農薬漬けの野菜、合成洗剤など極めつけは携帯電話不通地域ですって。

私のメッセージから

湖国滋賀に対する想いは人それぞれの生い立ちや現在の環境によって違うと思いますが、先人の苦勞を忘れて過去を振り返り、その良さだけに想いを馳せながらもこれから先は私達が先人となって次の世代へ素晴らしい環境を残していく義務があることを痛感しています。

日本一大きな湖、琵琶湖とその水とその中に生きる魚類、そして周りの美しい自然を維持する努力を惜しむべきでない。人間の利便や利益のために破壊する事への留意。反面、過疎の荒廃には最小限の開発を...時代と共に文化や生活様式、価値観が変わっても人間は自然と共に生かされていることを考えよう、などなど。貴重な回答ながらも私達一人一人の

行動がこれからの湖国滋賀を良くも悪くもするという事を肝に銘じて小さな事からでも改善して行こうではありませんか。

以上、フィールドレポーターの皆さんからの寄せていただいた回答から、ピックアップして勝手な考察としてアバウトなまとめとしました。